市民経済委員会行政視察報告

日　程：令和４年７月２０日（水）～令和４年７月２１日（木）
視察先：島根県出雲市、知多南部卸売市場（愛知県半田市）
参加者：北林委員長、鈴木（英）副委員長、中川委員、奥谷委員、加根委員、乗越委員、牧尾委員、
　　執行部１名、事務局随行１名

● 島根県出雲市　【人口】174,527 人（Ｒ４．７）　【面積】624.36ｋ㎡

◆ 視察事項
「出雲総合地方卸売市場における第三セクターから民営への移行について」

１　視察内容

(1) 出雲総合地方卸売市場の開設時の経緯及び概要

・昭和５４年に、青果、鮮魚を一括して取り扱う官民共同出資の第三セクター方式として、地方卸売市場を設立。（出雲市の出資：５５．０％、卸売業者：３２．４％、その他１２．６％）
・施設建設に際し、国県補助金や低利融資が得られること、市場取引ルールの調整・統一や市場の信用力を得るためには行政の関与が必要であったため、第三セクター方式を採用した。
・取扱品目…青果、花き、水産物
流通圏域…<u>出雲市、雲南市、飯南町</u>（圏域人口２２．２万人）
取扱高…４５億６，７００万円（民営化前のＨ２４年度当時）
・民営化するまで開設から３４年経過しているが、<u>３４年間常に黒字経営が続いた</u>。
Ｈ１４～Ｈ２５の経常利益は、１，１００万円～２，０００万円で推移。

(2) 出雲総合地方卸売市場の民営化に至った経緯

・農林水産物の生産・流通・販売をめぐる環境が大きく変わり、流通形態の多様化、小売店舗から大型量販店への移行により、全国的に卸売市場を経由しない販売が増え、出雲市においても市場取扱高が年々減少した。
・公的信用性、経営の安定化という第三セクターとしての当初の目的は達成した。

⇒　<u>民間企業が持つ専門的な知識、経験、企画営業力等を迅速に発揮するため、行政が経営権に関与しない民営の体制に移行し、市場取引の活性化を図ることが望ましいと考えた。</u>

・民営化のスケジュール

年　月	内　容
Ｈ２１．３	出雲市議会から出雲市へ「出雲総合地方卸売市場の民営化に関する申し入れ書」を提出
Ｈ２２．６	市において、「２１世紀出雲市行財政改革第２期実施計画」を策定し、市場においては、「市場の関与を見直し民営化を検討する」と明記。
Ｈ２２．８～ Ｈ２４．１２	財産処分に関する国県協議。Ｈ２４．１２．２７国より承認通知。 ※財産処分に係る国や県との調整、手続きに時間を費やした。
Ｈ２２．５	市保有財株の譲渡に関する各組織の決定・承認。
Ｈ２５．６	市保有株式の卸売業者への減額譲渡が議決され、完全民営化。

⑶　民営化に係る株式の譲渡について

・譲渡価格：１億８，１００万円（出雲市出資額：２億７，５００万円）
　譲渡先：卸売業者

・譲渡先との協議の結果、将来の施設改修計画（約１億円）に対する５５％の出資比率相当分と、完全民営化後の市場機能の維持と経営改善に向けるための助成経費として、固定資産税３か年相当分を合わせた９，４００万円を減額した。

・民営化とは言え、市と卸売業者で交わした確認書において、市場の活性化をはじめ、卸売市場としての目的を継承した施設の活用、新築・増改築等の事前協議等について整理している。

⑷　民営化後の状況について

・民営化後の取扱高は増加している。（令和３年度取扱高：５１億６，４２８万円）

・直近５年の経常利益は、約１，８４３万円～２，８３０万円で、健全経営を維持している。

・民営化後については、基本的に市が市場の経営等に関与することはないが、毎年決算状況の報告は受けている。

・経営安定化を図るため、敷地内の駐車場の余剰部分の有効活用として、太陽光発電所を設置。

◎出雲総合地方卸売市場は、設立以降、第三セクターの時代から市からの補助等が無くても安定的な黒字経営を維持されており、将来に向けた発展的な完全民営化を果たされている。

２　質疑応答

Ｑ　出雲市議会から出雲市へ出雲総合地方卸売市場の民営化に関する申し入れがあったことについて、当時、市議会でどのような背景があったのか。

Ａ　当時、市長が変わるタイミングでもあり、財政の立て直し、行財政改革を図る上で第三セクター等の整理を行う必要があった。市場については経営も安定しているため、以前から民営化の話はあったとは思われるが、このタイミングで議会から市に対し背中を押す形で、民営化に関する申入れを行ったのではないかと思われる。

Ｑ　平成２４年度（民営化する直前）の取扱高が４５億６，７００万円とあるが、これは地元の消費が大部分を占めているのか。

Ａ　基本的には、地元での取扱いである。

Ｑ　株式の譲渡について、市場自体安定的な黒字経営をされる中で、減額譲渡ができたのか。税務上の処理に問題は無かったのか。

Ａ　譲渡額の設定については、譲渡先との調整の中で設定された。当時の税務上の処理についての詳細までは把握していないが、株価自体を下げたのではなく、株式そのものの価値を維持したまま、当該株式を減額して譲渡するという整理で、議会からの議決をいただいたものである。

Ｑ　農林水産物の生産・流通・販売をめぐる環境が大きく変わり、市場取扱高が減少する厳しい状況の中で、卸売業者としては民営化は受け入れ難いことが想定される。その中で、卸売業者が民営化を受け入れた要因は何か。

Ａ　卸売業者が中心的な存在として市場を運営しており、ノウハウや営業力、市場としての信用も確立していた。行政が経営に関与しない体制の方が、経営判断・改善等の迅速な対応も可能であり、株式の譲渡額については協議を要したものの、民営化については卸売業者としてもスムーズに受け入れられた。

Ｑ　出雲総合地方卸売市場は、開設当時は出雲市内だけの取引きで、雲南市や飯南町へ流通圏域を広げられたのか。

Ａ　開業当時から、圏域は、出雲市、雲南市及び飯南町である。

Ｑ　流通傾向が変化する厳しい状況の中、開設以降黒字経営を継続できている要因は何か。

Ａ　卸売業者が市場の中心的役割を担っている中、他の市場と比較しても高い手数料を設定されたにもかかわらず、取扱高も高い水準で維持されている。卸売業者による農家等への顔の見える付き合いの展開等といった営業努力が非常に大きく、様々なニーズに対応できるよう市場を展開され、大型店舗等も取り込む能力やノウハウを持っておられたことも一因だと思われる。

Ｑ　市と卸売業者で交わした確認書の中で、「施設・設備の新設、増改築及び修繕等を行うときは、着手前に市に協議するものとする。」とあるが、市場の更新や増改築等を行うときは、市が補助を行う意味合いも含まれているのか。

Ａ　市場の建設に、国及び県の補助金が活用されている関係で、財産処分制限期間内は勝手に処分等できないため、更新や増改築等については事前に市との協議が必要であるという趣旨であり、市から補助を行うということではない。

Ｑ　民営化により、敷地の所有について変更はあったのか。

Ａ　敷地については、もともと株式会社出雲総合地方卸売市場の所有である。

Ｑ　市場の機械設備について、袋詰めやカット野菜に対応できる設備は導入されているのか。

Ａ　民営化後におそらく導入されていると思われるが、民営化後は市が関与していない関係で、詳細までは把握していない。

● 知多南部卸売市場（愛知県半田市）　【人口】118,184 人（Ｒ４．７）　【面積】47.42ｋ㎡

◆ 視察事項
「知多南部卸売市場について」

１　視察内容

(1) 知多南部卸売市場の開設時の経緯及び概要

・毎日の食生活に欠かすことのできない野菜、果実、鮮魚等の生鮮食料品の流通の合理化を果たし、地域住民の要望に応え、新鮮かつ安定した供給ができるよう、地域の市町（２市４町：半田市、常滑市、阿久比町、武豊町、美浜町、南知多町）と民間の卸売業者が出資して昭和６１年に開設した。

・取扱品目…野菜、果実、水産
供給エリアの人口…２８７，７３７人（開設時の出資市町を供給圏内とした令和２年度国勢調査速報値を基とした数値）
取扱量（Ｒ３年度）…７，８８９トン
取扱金額（Ｒ３年度）…２，５４６，５３８千円
青果物の入荷数量に対する地場産（供給圏内）の割合…２４％　※Ｈ３０年度・金額ベース
買受人数…４３１人（令和元年度）

(2) 市場の役割、強み及び課題について

〇役割

開設当時と同様、知多半島２市４町の消費者に、安心・安全な地元の生産品を安定供給する役割を担っている。加えて、地域の小規模農家の販路のひとつとなっている。また、半田市は、大規模災害発生時における市外からの救援支援物資等の集積及び仕分け作業を行う施設として市場を指定している。半田市から市場への支援施策は特に実施していない。

〇強み

地域の拠点市場として、地元生産者、特に小規模農家の販路として、安心・安全な地元の生産品を地域の消費者に安定供給することができる。また、交通インフラが整備されている。
※最寄りのＩＣまで約２㎞、名古屋市中心部まで約３０分、中部国際空港まで約１０㎞。

〇課題

・卸売市場の取扱金額の減少（生産者の減少に伴う生産量の減少が要因）
・施設の経年劣化による維持管理費及び環境整備費の増加
・施設の改修が必要

⑶ 市場のあり方についての調査検討について

令和元年度に、市場の経営の改善方策と今後のあり方等について調査検討を行い、その結果を踏まえ、具体的な取組みについて協議を進めることとした。調査検討の方針として、次の４つの方向性を挙げた。

①市場を株式持分で清算し、民間事業者に引き継ぐ。 ②市場が施設の大規模改修を行い、時期を見て民間事業者に引き継ぐ。 ③市場が新たな土地取得と施設建設を行い、一定期間市場による経営を行った後、民間事業者に引き継ぐ。※現有地は、一部売却、一部賃貸 ④民間による移転新設又は廃止

しかし、その後の協議において、調査検討の方針に対して、半田市、知多南部卸売市場（株）及び卸売業者の３者の合意が得られなかったため、当面は、現状を維持することとした。

ただし、今後の経営や施設の修繕、現有施設の有効活用による収入の確保等について検討を行うため、アイデアを話し合う場を令和３年度に設置した。そこで出された アイデアとしては、新半田病院の移転・建設に伴う未利用施設の貸付け等が挙げられた。

２　質疑応答

Ｑ　現有施設の有効活用として実施された未利用施設の貸付けにおいて、得られる収入はどのくらいか。

Ａ　市場の隣接地への新半田病院の移転・建設に伴い、市場内にある会議室及び駐車場を同病院の建設業者にお貸しした。また、未利用の敷地内に現場事務所を造っていただく予定で、その用地としてもお貸しし、今後３年間で約２，０００万円の収益を得る計画である。その収入で、市場内の蛍光灯のＬＥＤ化による経費の削減、無停電装置や排水ポンプ施設の修繕を行った。整備する際、補助金を活用している関係上、補助金適正化法に対する整理が課題である。

その他、余剰地を民間事業者へ売却し、市場面積を縮小し、固定資産税の減額を図った。

Ｑ　市場は昭和６１年に開設されているが、未だに補助金適正化法の適用を受けるのか。また、何かしらのペナルティ等が課される可能性もあるのか。

Ａ　市場の建物の耐用年数は５０年だが、建築から相当の年数が経過していることもあり、補助金適正化法に対する整理については愛知県と協議していく。ただ、全国的にも市場内に流通とは関係のない業種が入居されているケースはある。

Ｑ　新半田病院の移転・建設による未利用施設の貸付けは、一過性の対応にもなりかねないが、その後の見通しについてはどのようにお考えか。

Ａ　半田市との合意が得られているわけではなく、市場業務との整合については継続して課題があるが、病院が建設されることに伴い、薬局の誘致を検討したい。

Ｑ　①買受人は４３１人（Ｒ２．３月末）とあるが、実際に市場にいらっしゃる買受人はどのくらいか。

②買受人の高齢化に伴い、個人の小売店の減少が見込まれるが、今後の見通しについてはどのようにお考えか。

Ａ　①詳細の人数については把握していないが、買受人は高齢化しているものの、極端に減少していることはないと認識している。

②個人の小売店等については減少の方向に進んでいると思われる。ただ、市場を考える際に、どこに卸すかという話になりがちだが、市場の大きな役割として、農家の受入先としての機能がある。もし、この市場を無くしてしまったら、農家の高齢化も進んでおり、その農家の方たちが耕作を放棄し、知多半島が耕作放棄地で埋まってしまうおそれがあると考える。市場の必要性については、そういった視点も入れて議論していただきたい。

Ｑ　大型店舗等は、農家と直接取引等を行って、市場を経由しない流通が増えていると思われるが、その危機管理についてどうお考えか。

Ａ　全国的な流れとして、若い農業者等が農業法人を作って、機械を導入して農業参入されており、独自の流通ルートを持つこともあるが、すべての品目に対して契約相手がいるわけではなく、一部の品目に対しては農協や市場へ出されている。

Ｑ　敷地面積が３７，７４３㎡と広大だが、開設当初は、敷地全体・活用できていたのか。取扱量の減少により事業が縮小し、敷地に余剰ができることになったのか。

Ａ　当初、青果と合わせて魚の一大市場も目指していた。漁協の協力が一本化できなかったことや私設の魚市場との統合ができなかったことで、魚市場としての機能が果たされず、開設当初から敷地の余剰が発生してしまった。

Ｑ　入荷される青果物の供給圏内の割合は２４％（Ｈ３０年度…金額ベース）とあるが、半田市内の割合はどの程度か。

Ａ　圏域内は２５％程度であるが、その中で４割程度が常滑市である。半田市は酪農業の生産高は高いが、青果物を取り扱っている農家は少なく、供給圏の構成市町では半田市の入荷量は３～４番目である。

◎　各委員からの感想

◇　共通事項

○　出雲総合地方卸売市場及び知多南部卸売市場の両市場とも経営努力が伺えた。出雲市の場合は卸売業者が大手の商業施設等への販路拡大を行っており、半田市の場合は卸売市場が空きスペースや駐車場の貸し出し、また、土地の売却による固定資産税の軽減などを行っている。

○　東広島流通センターを含め、出雲市及び知多南部卸売市場を視察して、改めて時代の流れを感じた。大型店舗等は直接農家から仕入れることはもちろん、今日では契約栽培・契約生産等も行われている。

市場経由の青果物等の流通量の激減は本市も含め、各々同様であるようだ。

◇　出雲市

○　出雲総合地方卸売市場については、核となる卸売業者である出雲大同青果株式会社という組織を受け皿として、第三セクターからの民営化が図られた。民営化についても、当初の組織において、黒字決算を重ねていたことから、スムーズに移行している。民営化の理由についても、市場取引の活性化が図られるとのことであり、完全に行政から独立を果たし、民営化の効果も出ているようである。

○　開業当初から黒字化を達成し続けている背景は、出雲大同青果株式会社の営業手腕が勝っていたから、スムーズに民営化へ移行できたと感じた。

市場のインフラ整備に力を入れ、４，４００万円の投資で太陽光パネルを設置し、敷地内の余剰部分の有効活用を図っており、良い取組みと感じた。

○　出雲総合地方卸売市場の完全民営化については、当時の民主党政権における事業仕分けや市長交代などの影響により、また、出雲市議会からの民営化に関する申し入れ書の提出を受け、平成２２年の出雲市行財政改革第２期実施計画の策定に基づき、検討に入り、様々な協議を経て、平成２５年に実現した。第三セクター設立以降も黒字経営が続き、もはや市の関与が不要になっていたことが主因であり、実質赤字経営が続き、今後の在り方を探っている東広島流通センターの状況とは異なる。

出雲総合地方卸売市場は第三セクターで設立された当初より、その組織の中心的役割を果たしていたであろう卸売業者である出雲大同青果株式会社の存在が大きく、完全民営化後も同社が持つノウハウも採用され、現在も安定した経常利益を出していることを考えると、核となる民間企業、団体の存在が必要不可欠と感じられた。

農林水産物の生産、流通、販売をめぐる環境は、大きく変化しており、民間企業が持つ専門知識、経験、企画営業力などが活用され、マーケティングなど消費者のニーズを把握し、迅速に対応することにより、市場取引の活性化が図られることが期待できる。

行政が経営に関与しない体制になり、市関連施設のスリム化を図ることにも有効であると感じられ、東広島流通センターでそのような対応がなされているかは、不透明である。

○　当初の第三セクター方式での取組みにおいても、市場信用力の向上に努めておられたことは本市とは真逆である。経済の変化に対応するための柔軟な取引を行うため、第三セクターから民営に移行されたことは、時に応じた選択であったように思う。民営企業が持つ専門知識、経験、企画営業力がフルに発揮でき、まさに市場取引の活性化につながっている。黒字経営に甘んじることなく、さらなるパワーアップ（営業努力）がなされている。

○　完全民営化移行への考え方の内、①近年の農林水産物の生産・流通・販売をめぐる環境は大きく変わり、産地間競争の激化、流通の大規模化と範囲拡大、消費者の購買動向の変化（小売店舗から大型量販店への移行、安全性の追求等）が顕著である。②様々な流通経路がある中で、全国的に卸売市場を経由しない販売が増え、本市においても市場取扱高は年々減少している。という考え方がある中で、完全民営化ができ、売上も徐々に増加し経常利益も確保し、健全経営を維持されているのは、民間事業者の経営能力の素晴らしさを感じた。
　ただ、具体的な取組内容や経営者の方針が確認できなかったのが残念である。

◇　知多南部卸売市場（愛知県半田市）

○　半田市が抱える知多南部卸売市場については、第三セクター方式を堅持している。その大きな理由として、野菜出荷農家の割合が約２５％あり、もしこの市場を閉じるようなことがあった場合、知多半島は耕作放棄地が激増するだろうとの予測だからということだった。これももっともな理由であり、小規模農家を守っていく施策につながっていくものである。収益の柱については、知恵を絞って市場経営を行うことで、複合的な取組みを行っている。

○　２市４町と卸売業者が出資して昭和６１年に開設されたが、当初の計画より規模が縮小された状態で開業したため、取扱量の減少に伴い苦しい経営をされている。
　敷地面積も３７，７４３㎡と広大であったため、敷地の一部を建設業者に売り払って土地使用料の削減を図った。また、ＬＥＤ化を推進しコスト削減を図った。

○　知多南部卸売市場の運営における基本的営業姿勢は、貪欲なまでの利益向上と、全体幸福と捉えられており、そこの基軸となっているのが農家の売上向上、つまり軸足を生産者に向けていることである。一番関心を持ったのは市場とは関係ない企業を入れ、収益を上げていることである。さらに設備の改善も図り、専用の加工場を設置されている。このアイデアも驚いた。

○　卸売市場として経営が厳しい中で、未利用施設の貸付け等により、収入確保の取組みをされているが、長期的には不安があると感じた。
　市場の役割の一つに、小規模農家や高齢者の生産意欲と農地保全のために市場として一定の役割を果たしていこうとされているが、後継者の育成を共に行わないと、将来的には役割を果たしていくことにつながらないと感じた。
　ただ、市場長の卸売市場を思う、強い熱意を感じた。